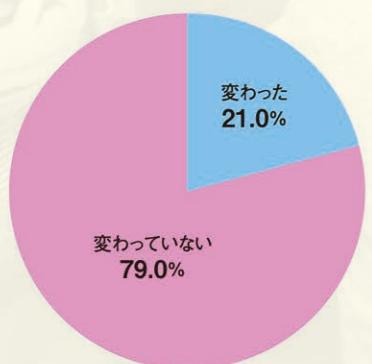




緊 急事態宣言発令前と現在の遊技頻度の変化を尋ねたところ、31・2%が緊急事態宣言前より現在の方が「頻度が減った」と回答。アンケート対象者であるP・WORLD閲覧者は、遊技頻度や使用金額が多い「ヘビープレイヤー」の割合が高いと推測されるため、来店客全体では、さらに遊技頻度が減少した人の割合が高いとみられる。遊技頻度が減った理由で最も多かったのが「打ちたい遊技機がなくなつた」で56%。緊急事態宣言の前後で、それほど多くの遊技機が撤去されたわけではないことを考えると、ホールに行く動機となっていた特定の機種がなくなつたからというより、それ以前から遊

緊急事態宣言発令期間の前後で遊びによく行くホールは変わったか?



続きを読む月刊アミューズメントジャパン
2月号をご覧ください

2 新型コロナウイルスの影響 遊技頻度減つたが3割

「遊技中に加熱式たばこを吸えるようになつたら、加熱式たばこを吸いながら遊技したいか?」と尋ねたところ、加熱式たばこを吸う人では半数以上、紙巻きたばこのみを吸う人でも33%が「吸いながら遊技したい」と回答。紙巻きたばこのみを吸う人の3割超は、加熱式たばこに変更しても遊技中に喫煙しようだ。

「好ましい」と答えた割合はパチンコプレイヤーに多く、パチンコ派(普段パチンコのみ、主にパチンコを遊技)で78・4%、「好まし」で73%が「好ましい」と回答した。一方で、喫煙環境には特に関心を示さない層も14%いた。

「好ましい」と答えた割合はパチンコプレイヤーに多く、パチンコ派(普段パチンコのみ、主にパチンコを遊技)で78・4%、「好ましい」で73%が「好ましい」と回答した。一方で、喫煙環境には特に関心を示さない層も14%いた。

まず原則禁煙になつたホールの空気環境について、どう思つかについて尋ねた。その結果、「好ましい」58%、「やや好ましい」15%で73%が「好ましい」と回答した。「一方で、喫煙環境には特に関心を示さない層も14%いた。

アンケートは新型コロナウイルスによる客数減少などもあり、その影響度合いが把握しにくいのが現状だ。

ホ

ール内の原則禁煙はプレイヤーにとつて大きな環境の変化で、プレイ動向に少くない影響を与えたと考えられる。だが、新型コロナウイルスによる客数減少などもあり、その影響度合いが把握しにくいのが現状だ。

技術)で71・3%だった。

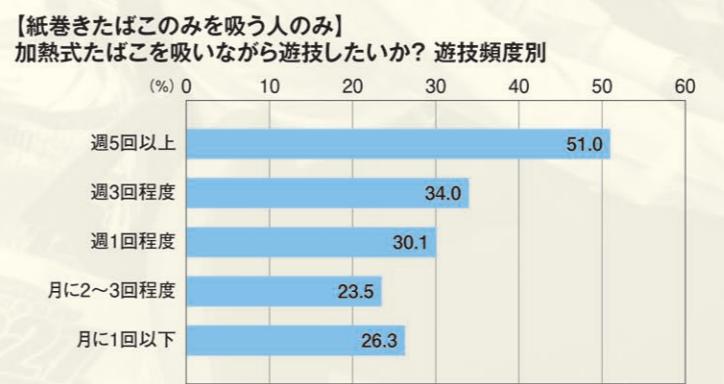
「好ましい」と答えたのは、当然ではあるが非喫煙者で89・4%と高かつた。一方、喫煙者は、加熱式たばこを吸っているか、紙巻きたばこを吸っているかで評価が分かれた。加熱式たばこのみを吸う人は71・7%が「好ましい」と回答。これは、加熱式たばこを吸いながら遊技できる

ホールが増えつつあること

も影響している

のかもしれない。

ただ、紙巻きたばこのみを吸う人で半数以上が「好ましい」と回答している。過去の調査でも(ホール内で喫煙ができる時代の調査)「喫煙者だけが他人の



煙は気になる」という人が一定数いたように、喫煙者でもホール内原則禁煙についてポジティブに捉えている層は一定割合いる。

では、ホールに行く頻度や滞在時間に影響を与えたのか。設問で「原則禁煙になつたことで、ホールへ行く回数や時間が変わったか」を尋ねたところ、「やや減つた」14%、「減

たい」という、強い「喫煙欲」があることが伺える。

実際、加熱式たばこを吸いながら遊技できる環境があるホールとそうでないホールで、前者の客数シェアが高まつた事例が複数あることからも、遊技中に喫煙できる環境を望むプレイヤーが多いと言えそうだ。

ワニフロアのホールでは加熱式遊技ゾーンを設けるために、コスト面も含めて、やや大規模な変更が必要になるが、それでも「今後吸いたい」と答えた人たちを抽出したところ、遊技フロアで吸えるなら「加熱式たばこ」を吸いたいと答えた人たちは、遊技頻度が高いほどその割合が高く、さらに使用金額が高いほどその割合は高まるという傾向がみられた。

1 ホール内原則禁煙の影響